

過去の夜の講座一覧（令和2年度～令和6年度）

年度	開催日	名称	講師（役職は当時のもの）	参加人数
令和2 2020	R2.6.24	面河溪に咲く花・久万高原の晶洞鉱物の話	矢野真志（面河山岳博物館学芸員）、山路綾子（久万高原町 地域おこし協力隊員）	36
	R2.7.29	理科室の宝物～博物館と学校をつなぐ学校収蔵標本～	稲葉正和（愛媛県立松山北高等学校教員）	26
	R2.12.11	昆虫の起源と進化～卵の中を調べてわかること～	福井眞生子（愛媛大学大学院理工学研究科特任講師）	21
令和3 2021	R3.5.28	四国のニホンジカとニホンカモシカ	金城芳典（認定NPO法人四国自然科学研究センター長）	28
	R3.7.2	人の眼の不思議～モノを見るとはどういうことか～	中村彰正（元久万高原天体観測館職員）	26
	R3.10.28	石鎚山はなぜ高い？石鎚山系の地学入門	千葉昇（元愛媛県総合科学博物館学芸課長）	37
	R3.11.26	面河溪の観光開発史	面河山岳博物館学芸員	34
令和4 2022	R4.5.31	銀河と微小昆虫の話	重藤遼太郎（久万高原天体観測館学芸員）、安田昂平（面河山岳博物館学芸員）	29
	R4.6.29	どうしてこんなに種類が多い？寄生バチの多様な世界	小西和彦（愛媛大学ミュージアム教授）	28
	R4.7.28	林業と生物多様性～木を伐って残して守る地域の自然～	山浦悠一（国立研究開発法人森林総合研究所四国支所主任研究員）	33
	R4.8.30	生き物屋の戦い方～コウモリ・モグラ・ヤモリの新発見を支えた道具と工夫～	谷岡仁（日本野鳥の会高知県支部会員、日本自然保護協会自然観察指導員）	31
	R4.10.12	ゴキブリ夜話～ふみこめばきっと面白い！ゴキブリの世界～	柳沢静磨（磐田市竜洋昆虫自然観察公園職員）	60
	R4.11.2	いい川ってどんな川？～生き物の視点から考える地域の川づくり～	三宅洋（愛媛大学大学院理工学研究科教授）	35
令和5 2023	R4.12.8	待ったなし！愛媛のニホンジカ問題～農林業被害から観光資源の劣化まで～	山本貴仁（NPO法人西条自然学校理事長）	51
	R5.4.12	身近でもこんなに知らないサワガニのこと	中村仁駿（愛媛県農林水産研究所林業研究センター主任研究員）	34
	R5.11.30	里山の自然のトリセツ～里山の動植物、その生物多様性の簡易的な評価法～	橋越清一（日本生物教育学四国支部長、愛媛植物研究会会員）	47
	R5.12.18	発光生物のはなし～ホタルだけじゃない！クラゲもミミズもキノコも光る～	南条完和（愛媛大学理学部首席）	30
令和6 2024	R6.4.18	瀬戸内の白砂が語る愛媛の大地	山根勝枝（愛媛県総合科学博物館学芸員）	25

面河溪に咲く花・久万高原の晶洞鉱物の話

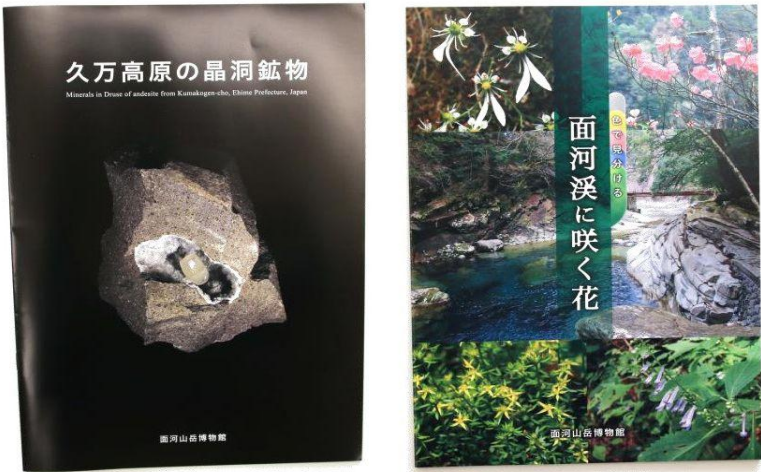
面河山岳博物館では 2020 年 3 月に 2 冊の普及冊子、「色で見分ける面河溪に咲く花」「久万高原の晶洞鉱物」を発行しました。今回の講座では調査・執筆・編集を担当したスタッフが、花や鉱物の魅力を交えて冊子の紹介をします。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4 月以降全く事業の実施ができていませんでした。今年度初開催となる夜の講座です。お楽しみに！

【内容】

- ◎面河溪に咲く花の見所、観察のキモ
- ◎興味深い面河溪の植物の生態
- ◎久万高原町の地質について
- ◎砕石業の歴史と晶洞鉱物の発見史

★会場で冊子の販売おこないます！
(面河溪の花 700 円、晶洞鉱物 600 円)



- ◎日 時：令和 2 年 6 月 24 日（水）19：00～20：15
- ◎場 所：久万高原町産業文化会館研修室（住所／上浮穴郡久万高原町久万 188）
- ◎講 師：山岳博物館職員（学芸員・矢野真志、地域おこし協力隊員・山路稜子）
- ◎参加費：100 円 ◎定員：35 名（感染症対策のため定員を絞っています。）
- ◎申 込：下記まで、氏名・住所・連絡先をお知らせください。
面河山岳博物館 電話：0892-58-2130 FAX：0892-58-2136
- ◎注意事項：聴講の際はマスクを着用ください。
体調不良の方、県外在住の方の方は聴講をご遠慮ください。

参加申込票（FAX用）

以下に必要事項をご記入の上、博物館までFAXください。いただいた個人情報は適正に管理し、延期・中止など本事業に関するご連絡にのみ使用させていただきます。また、第三者に開示・提供することはありません。

参加者氏名	
住所	
電話番号	

昆虫の起源と進化

～卵の中を調べて分かること～

昆虫類は全動物種の 7 割以上を占め、地上で最も繁栄した生物と言われています。その姿は多様で、身近な種類を見分けるだけでも分厚い図鑑が必要になるほど。かれらはどのように進化し、多様性を獲得してきたのでしょうか？

講師の福井先生は昆虫比較発生学が専門で、昆虫の卵が成長していく過程をグループごとに比較し、その進化を考えるという研究をされています。今回はその研究材料である体長 1mm ほどの原始的な昆虫カマアシムシやバッタ類、それらの小さな卵を詳しく調べて分かった昆虫の進化の謎についてお話いただきます。昆虫のことをもっと知りたい方、研究者になりたい若い方、必聴です！

【内容】

- ◎地球は昆虫だらけ、昆虫ってどんな生き物？
- ◎昆虫らしくない“原始的”な昆虫たち
- ◎他の虫に食べられてばかりのカマアシムシ
- ◎1mmのカマアシムシを 50,000 匹飼う研究
- ◎小さな卵の発生を見る研究について
- ◎研究の苦労と楽しみ



福井先生の研究対象、カマアシムシ目

- ◎日 時：令和 2 年 12 月 11 日（金）19：00～20：15
- ◎場 所：久万高原町産業文化会館研修室（住所／上浮穴郡久万高原町久万 188）
- ◎講 師：福井 真生子さん（愛媛大学大学院理工学研究科特任講師）
- ◎参加費：100 円 ◎定員：40 名（感染症対策のため定員を絞っています。）
- ◎申 込：下記まで、氏名・住所・連絡先をお知らせください。
面河山岳博物館 電話：0892-58-2130 FAX：0892-58-2136

【注意事項】

- ★発熱や強い倦怠感など体調不良のある方は聴講をご遠慮ください。
- ★聴講の際はマスクを持参の上、着用ください。
- ★新型コロナウイルスの影響や感染拡大防止にともなう国や県の方針により、急きょ中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

参加申込票（FAX用）

以下に必要事項をご記入の上、博物館までFAXください。いただいた個人情報は適正に管理し、延期・中止など本事業に関するご連絡にのみ使用させていただきます。また、第三者に開示・提供することはありません。

参加者氏名	
住所	
電話番号	

理科室の宝物～博物館と学校をつなぐ学校収蔵標本～

愛媛県内の高校理科室には、生物学や理科の授業で利用されていた様々な標本が多数収蔵されています。ある学校には、国の特別天然記念物コウノトリやライチョウ、アマミノクロウサギなどの剥製、さらにはカンガルーやオランウータンの剥製までが保存されています。

近年の理科室標本調査により、県内ですでに絶滅してしまったスナヤツメの標本や明治時代に採集された植物標本など、貴重な情報が多数眠っていることが分かってきました。これらの中には久万高原で得られた標本も含まれています。

博物館ですら残すことができなかった古い記録を今後どう残し、どう利用していくか？標本の価値について考えてみませんか？

【内容】

- ◎学校理科室に残る標本とは？
- ◎愛媛の高校から見つかった貴重な標本
- ◎理科室標本が紐解く過去の愛媛の自然
- ◎理科室標本の危機
- ◎標本を残す意義とは？



特別天然記念物トキの剥製
(採集場所や年代不明、愛媛大学附属高等学校所蔵)

- ◎日 時：令和 2 年 7 月 29 日（水）19：00～20：15
- ◎場 所：久万高原町産業文化会館研修室（住所／上浮穴郡久万高原町久万 188）
- ◎講 師：稲葉正和さん
(愛媛県立松山北高等学校教員、元愛媛県総合科学博物館職員)
- ◎参加費：100 円 ◎定員：40 名（感染症対策のため定員を絞っています。）
- ◎申 込：下記まで、氏名・住所・連絡先をお知らせください。
面河山岳博物館 電話：0892-58-2130 FAX：0892-58-2136

【注意事項】

- ★発熱や強い倦怠感など体調不良のある方は聴講をご遠慮ください。
- ★聴講の際はマスクを持参の上、着用ください。
- ★新型コロナウイルスの影響や感染拡大防止にともなう国や県の方針により、急きょ中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

参加申込票（FAX用）

以下に必要事項をご記入の上、博物館までFAXください。いただいた個人情報は適正に管理し、延期・中止など本事業に関するご連絡にのみ使用させていただきます。また、第三者に開示・提供することはありません。

参加者氏名	
住所	
電話番号	

四国のニホンジカとニホンカモシカ

2014 年に愛媛県絶滅と評価されたものの、近年の相次ぐ確認事例から県内での生息が確実となったニホンカモシカ。この再発見と害獣として問題になっているニホンジカの個体数増には密接な関係があります。

今回の講座では、四国における両種の生息状況を長年調査している研究者をお招きし、生態の違いや四国での分布の変遷と現状、農林業被害の現状など、シカとカモシカを深く知るお話をさせていただきます。

【内容】

- ・ニホンジカとカモシカの違い
- ・四国のシカとカモシカの分布変遷
- ・害獣としてのシカ、カモシカ
- ・剣山系でのシカ管理の現状
- ・愛媛県のシカ被害状況
- ・シカの個体数増と分布拡大のカモシカ生息状況への影響 など



- ◎日 時：令和 3 年 6 月 9 日（水）19：00～20：15
- ◎場 所：久万高原町産業文化会館研修室（住所／上浮穴郡久万高原町久万 188）
- ◎講 師：金城芳典さん（認定 NPO 法人四国自然史科学研究センター長）
- ◎参加費：100 円 ◎定員：40 名（感染症対策のため定員を絞っています。）
- ◎申 込：下記まで、氏名・住所・連絡先をお知らせください。
面河山岳博物館 電話：0892-58-2130 FAX：0892-58-2136

【注意事項】

- ★発熱や強い倦怠感など体調不良のある方は聴講をご遠慮ください。
- ★聴講の際はマスクを持参の上、着用ください。
- ★新型コロナウイルスの影響や感染拡大防止にともなう国や県の方針により、急きょ中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

参加申込票（FAX用）

以下に必要事項をご記入の上、博物館までFAXください。いただいた個人情報は適正に管理し、延期・中止など本事業に関するご連絡にのみ使用させていただきます。また、第三者に開示・提供することはありません。

参加者氏名	
住所	
電話番号	

【面河山岳博物館・夜の講座】

ヒトの目の不思議

～視覚のしくみを知ると見えてくるもの～

ヒトの視覚には、長い進化の過程で獲得した優れた能力が備わっています。ピントや絞りの自動調節、夜間撮影モードへの切り換えに画像を見やすくする補正処理まで、その性能はまるで高級カメラのよう。一方でどこかに不具合があるとたちまち能力がダウンし、しかも多くの部品は修理も交換もできないという弱点も持ち合わせています。

今回の講座ではヒトの目の構造やモノが見える仕組み、目の不具合が引き起こす近視、老眼、緑内障について紹介します。あわせてヒトの視覚が引き起こす心霊写真や火星の人間顔のミステリーにも迫ります。



- ◎日 時：令和3年7月2日（金）19：00～20：15
◎場 所：久万高原町産業文化会館研修室（住所／上浮穴郡久万高原町久万188）
◎講 師：中村彰正さん（元久万高原天体観測館職員）
◎参加費：100円 ◎定員：30名
◎申 込：下記まで、氏名・住所・連絡先をお知らせください。
面河山岳博物館 電話：0892-58-2130 FAX：0892-58-2136

【注意事項】

- ★発熱や強い倦怠感など体調不良のある方は聴講をご遠慮ください。
- ★聴講の際はマスクを持参の上、着用ください。
- ★新型コロナウイルスの影響や感染拡大防止にともなう国や県の方針により、急きょ中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

参加申込票（FAX用）

以下に必要事項をご記入の上、博物館までFAXください。いただいた個人情報は適正に管理し、延期・中止など本事業に関するご連絡にのみ使用させていただきます。また、第三者に開示・提供することはありません。

参加者氏名	
住所	
電話番号	

【令和3年度 面河山岳博物館・夜の講座】

「溪泉亭」の歴史から紐解く 面河溪観光の歩み



昭和5年ごろの溪泉亭

★お願い！

久万高原に関する古い絵葉書やパンフレット、写真などをお持ちの方は、ぜひご持参ください!!地域の近代化資料として活用します。

※当日お借りするなどし、博物館で撮影・記録をさせていただきます。

昭和初期、日本百景に入選後、国の名勝へと指定された面河溪。その溪谷美は「天下の絶勝」とも呼ばれ、昭和末期まで観光客が絶えることはありませんでした。その観光開発の歩みの中心には、昭和5年に建てられた高級旅館「溪泉亭」がありました。

観光の熱気で沸き立っていた昭和の面河溪。奥地の秘境に忽然と現れた溪泉亭の歴史から、観光開発の歩みをたどってみます。



昭和初期の絵葉書（亀殿前）

- ◎日 時：令和3年11月25日（木）19：00～20：15
◎場 所：久万高原町産業文化会館研修室（久万高原町久万188）
◎定 員：40名（定員になり次第締め切らせていただきます）
◎講 師：矢野真志（面河山岳博物館学芸員）
◎参加費：100円
◎申 込：面河山岳博物館まで氏名・住所・連絡先をお知らせください。
電話：0892-58-2130 FAX：0892-58-2136

※感染症拡大防止のため体調不良の場合は参加をご遠慮ください。
※マスク着用でご参加ください。

参加申込票（FAX用）

以下に必要事項をご記入の上、博物館までFAXください。いただいた個人情報は適正に管理し、延期・中止など本事業に関するご連絡にのみ使用させていただきます。また、第三者に開示・提供することはありません。

参加者氏名（ ）
住所（ ） 電話番号（ ）

【面河山岳博物館・夜の講座】

石鎚山はなぜ高い？石鎚山系の地学入門

この講座では西日本最高峰石鎚山がどのようにしてできあがったのか？について、日本列島や四国の誕生を絡めながら分かりやすくお話ししていただきます。荒々しい岩の天狗岳、なだらかな瓶ヶ森など、誰でも知っている石鎚の山々に隠れたドラマを通して、地域の自然を知るまたとない機会です。



【内容】

- 石鎚山の石はどんな石？
- むかし、石鎚に湖があった！？
- 日本列島の誕生と石鎚火山
- 中央構造線とは？
- なぜ、石鎚山は高くなった？
- 登山のときにこの石を見よう！

- ◎日 時：令和3年10月28日（木）19：00～20：15
◎場 所：久万高原町産業文化会館研修室（久万高原町久万188）
◎講 師：千葉 昇さん（元愛媛県総合科学博物館学芸課長）
◎参加費：100円
◎申 込：下記まで、氏名・住所・連絡先をお知らせください。
面河山岳博物館 電話：0892-58-2130 FAX：0892-58-2136

※感染症拡大防止のため体調不良の場合は参加をご遠慮ください。

※マスク着用でご参加ください。

参加申込票（FAX用）

以下に必要事項をご記入の上、博物館までFAXください。いただいた個人情報は適正に管理し、延期・中止など本事業に関するご連絡にのみ使用させていただきます。また、第三者に開示・提供することはありません。

参加者氏名	
住所	
電話番号	

【面河山岳博物館・夜の講座】

銀河と微小昆虫の話

久万高原町の自然史系博物館の若手学芸員2名が、自らの専門分野を分かりやすくお話しします。

一方は望遠鏡で観測する宇宙の話。銀河っていったい何なの？その誕生から進化、種類や見つけ方などを紹介。銀河の中心には何があるのか？美しい銀河の写真と一緒にその謎を語ります！

もう一方は顕微鏡で観察する極小の昆虫の話。肉眼では何だかよく分からない小さな数ミリの昆虫たちも、拡大するとその造形美にゾクゾクさせられます。マルドロムシやダルマガムシ、ノミバツタなど指先ほどの微小昆虫の世界を語ります！



1.6ミリほどしかないシムネマルドロムシ



天体観測館の望遠鏡とアンドロメダ銀河

- ◎日 時：令和4年5月31日（火）19：00～20：15
◎場 所：久万高原町産業文化会館研修室（住所／上浮穴郡久万高原町久万188）
◎講 師：重藤遼太郎（久万高原天体観測館学芸員）
安田 昂平（面河山岳博物館学芸員）
◎参加費：100円 ◎定員：40名
◎申 込：下記まで、氏名・住所・連絡先をお知らせください。
面河山岳博物館 電話：0892-58-2130 FAX：0892-58-2136

【注意事項】

- ★発熱や強い倦怠感など体調不良のある方は聴講をご遠慮ください。
- ★聴講の際はマスクを持参の上、着用ください。
- ★新型コロナウイルスの影響や感染拡大防止にともなう国や県の方針により、急きょ中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

参加申込票（FAX用）

以下に必要事項をご記入の上、博物館までFAXください。いただいた個人情報は適正に管理し、延期・中止など本事業に関するご連絡にのみ使用させていただきます。また、第三者に開示・提供することはありません。

参加者氏名	
住所	
電話番号	

令和4年度 面河山岳博物館 夜の講座

どうしてこんなに種類が多い？ 寄生バチの多様な世界

15万種を超すと言われるハチの仲間には、他の昆虫や節足動物に寄生する「寄生バチ」が多く含まれています。その中でもヒメバチ科は日本だけで1600種以上が知られ、チョウやハエ、クモなどを宿主として利用しています。アリの巣に近づいたり、水中にもぐったり、クモの巣を利用したりと、寄生するためにみせる彼らの不思議な生態に迫ります。

【主な講演内容】

- ◎ヒメバチ科は最多種数の寄生バチ
- ◎ハチが水に潜る？ ミズバチの不思議な生態
- ◎水生昆虫へのアプローチはさまざま
- ◎アリ幼虫を狙うハチ アラクワアリヤドリバチ
- ◎小さなアリに大きなヒメバチが寄生する謎
- ◎なぜアリを利用する？アリ幼虫寄生への道

☆日 時：令和4年6月29日（水）19:00～20:15
☆場 所：久万高原町産業文化会館研修室
（久万高原町久万188番地）
☆参加費：100円 ☆定 員：40人

【講師：小西和彦さん】

愛媛大学ミュージアム教授。専門は寄生バチ類の系統分類学。最近は、アリに寄生するアリヤドリバチの生態調査にはまっている。



ミズバチに寄生されたニンギョウトビケラの巣



アリの行列の上をホバリングするアラカワアリヤドリバチ

参加には申し込みが必要です。

- ※お問合わせ・お申込みは面河山岳博物館（電話：0892-58-2130）
- ※聴講の際はマスクを持参の上、着用ください。発熱など体調不良のある方は聴講をご遠慮ください。
- ※新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、延期もしくは中止の場合もあります。
- ※お車の駐車は久万高原町役場および産業文化会館の駐車場をご利用ください。

参加申込票

以下に必要事項をご記入の上、博物館までFAXください。いただいた個人情報は適正に管理し、延期・中止など本事業に関するご連絡にのみ使用させていただきます。また、第三者に開示・提供することはありません。

参加者氏名	
住所	
電話番号	

令和4年度 面河山岳博物館 夜の講座

生き物屋の戦い方

～コウモリ・モグラ・ヤモリの新発見を支えた道具と工夫～

生物採集や調査をして、その分布や生態などを明らかにする生き物好きを「生き物屋」と呼びます。生き物屋は得意分野ごとに「虫屋」「鳥屋」「哺乳類屋」「コケ屋」などに分かれ、さらには「カメムシ屋」「コウモリ屋」へと細分されます。生き物屋は対象生物の発見や捕獲、標本化のため、さまざまな工夫と技をもっています。服装や道具、行動、着眼点などなど、それらを武器に自然に戦いを挑んでいると言っても過言ではありません。その工夫に努力と執念が合わさると、稀に面白い発見生み出すことができます。

今回の講座では四国でコウモリやモグラ、野鳥、ヤモリなどを長年調査してきた演者が、これまでに得られた新発見とそれに至った工夫や道具など調査の方法を紹介します。謎のベールに包まれた「生き物屋」の生態が明らかになる！

【主な講演内容】

- ◎こんな道具でコウモリの繁殖生態を解明！
- ◎モグラ、ネズミ、ヤモリ、ヘビを捕獲！その道具と工夫とは？
- ◎生き物屋の七つ道具、野外調査の装備
- ◎100円ショップは宝の山か？

☆日 時：令和4年8月30日(火) 19:00～20:15
☆場 所：久万高原町産業文化会館研修室
（久万高原町久万188番地）
☆参加費：100円 ☆定 員：40人

【講師：谷岡 仁さん】

鳥取県出身、高知県在住。日本野鳥の会高知支部会員、日本自然保護協会自然観察指導員、生物分類技能検定1級（哺乳類両生爬虫類）。自然環境調査員の仕事のかたわら、野生動物の分布や生態調査をする在野の研究者。自然観察会や環境学習授業の講師、環境学習指導者向けプログラム案の作成などにも携わる。



上：自作トラップの中のコテングコウモリ
下：四国では希少なアズマモグラ、ヤマネ（国指定天然記念物）

参加には申し込みが必要です。

- ※お問合わせ・お申込みは面河山岳博物館（電話：0892-58-2130 FAX：0892-58-2136）
- ※聴講の際はマスクを持参の上、着用ください。発熱など体調不良のある方は聴講をご遠慮ください。
- ※新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、延期もしくは中止の場合もあります。
- ※お車の駐車は久万高原町役場および産業文化会館の駐車場をご利用ください。

参加申込票

以下に必要事項をご記入の上、博物館までFAXください。いただいた個人情報は適正に管理し、延期・中止など本事業に関するご連絡にのみ使用させていただきます。また、第三者に開示・提供することはありません。

参加者氏名	
住所	
電話番号	

令和4年度 面河山岳博物館 夜の講座

林業と生物多様性

～木を伐って残して守る地域の自然～

久万高原町の林野率は約9割。ほぼ森に覆われていますが、その8割はスギ・ヒノキの人工林です。この広大な人為的環境でどうすれば生物多様性を育むことができるのでしょうか？

今回の講座では、欧米で普及している生物多様性に配慮した林業「保持林業」の研究者をお呼びし、林業を営みながら自然豊かな環境をつくる方法などをお聞きたいと思います。植林も森林伐採も自然破壊だと思いがちですが、実はそうではありません。むしろその営みによって生まれる若い木々の森や草原を生息地とする生き物は決して少なくありません。むしろそのような種のほうが、絶滅にひんしている場合もあります。北海道では、人工林を主伐する際に広葉樹を残す実験が行なわれ、新しい森林理法として注目されています。林業の町、久万高原だからできる自然との付き合い方を考えてみましょう。

【主な講演内容】

- ◎消えゆく日本の草地・草地性生物とその記憶
- ◎幼齢人工林と草地性の動植物保全
- ◎主伐時に残そう！人工林内の広葉樹の役割
- ◎保持林業の可能性と課題

☆日 時：令和4年7月28日(木) 19:00～20:15
☆場 所：久万高原町産業文化会館研修室
（久万高原町久万188番地）
☆参加費：100円 ☆定 員：40人

【講師：山浦悠一さん】

国立研究開発法人森林総合研究所四国支所・主任研究員。長野県出身。岩手大学農学部を経て、東京大学大学院農学研究科にて博士号を取得。長野県林務課職員、北海道大学大学院農学研究所などを経て現職。特に鳥類を専門に、生物多様性の保全・創出の観点から森林の管理・利用と生き物の関わりを研究。



参加には申し込みが必要です。

- ※お問合わせ・お申込みは面河山岳博物館（電話：0892-58-2130 FAX：0892-58-2136）
- ※聴講の際はマスクを持参の上、着用ください。発熱など体調不良のある方は聴講をご遠慮ください。
- ※新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、延期もしくは中止の場合もあります。
- ※お車の駐車は久万高原町役場および産業文化会館の駐車場をご利用ください。

参加申込票

以下に必要事項をご記入の上、博物館までFAXください。いただいた個人情報は適正に管理し、延期・中止など本事業に関するご連絡にのみ使用させていただきます。また、第三者に開示・提供することはありません。

参加者氏名	
住所	
電話番号	

令和4年度 面河山岳博物館 夜の講座

ゴキブリ夜話

～ふみこめばきっと面白い！ゴキブリの世界～

ゴキブリの名を知らない人はいないでしょう。身近でこれほどまでに嫌われている昆虫は他にいません。気持ち悪い、不潔、恐怖、殺しても死なない？、人を目指して飛んでくる、などなど真実と思い込みと誤解と都市伝説のようなウソがごちゃ混ぜになって、本当のかれらの姿は見えなくなっています。

今回の講座では『ゴキブリスト』としてゴキブリ愛をもってゴキブリの真の姿を伝導している演者が、日本のゴキブリの多様性、飼育の面白さ、新種発見のいきさつなどについて語ります。ゴキブリ好きになる必要はありません！ただ、ほんの少しゴキブリを知るだけで、新しい世界が広がるのです！

【主な講演内容】

- ◎なぜゴキブリを好きになり、ゴキブリストになった？
- ◎多様なゴキブリの世界、日本のゴキブリ64種
- ◎美しいゴキブリ、カッコいいゴキブリ
- ◎ゴキブリのウソとホント
- ◎ゴキブリ展示、GKB総選挙、ゴキブリ図鑑の話
- ◎ゴキブリの新種発見！

☆日 時：令和4年10月12日(水) 19:00～20:30
☆場 所：久万高原町産業文化会館多目的ホール
（久万高原町久万188番地）
☆参加費：100円 ☆定 員：70人

【講師：柳澤 静磨さん】

東京都出身。磐田市竜洋昆虫自然観察公園職員。同園ではゴキブリの魅力伝える『ゴキブリ展』を企画・運営、「GKB48総選挙」などのユニークな催しで注目を集める。2020年に所属する研究チームとともに、35年ぶりとなる日本産ゴキブリの新種・ウスオビハシリゴキブリ、アカボシハシリゴキブリの2種を発表。



★参加には申し込みが必要です★

- ※お問合わせ・お申込みは面河山岳博物館まで（電話：0892-58-2130 FAX：0892-58-2136）
- ※聴講の際はマスクを持参の上、着用ください。発熱など体調不良のある方は聴講をご遠慮ください。
- ※新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、延期もしくは中止の場合もあります。
- ※お車の駐車は産業文化会館および久万高原町役場の駐車場をご利用ください。

参加申込票

以下に必要事項をご記入の上、博物館までFAXください。いただいた個人情報は適正に管理し、延期・中止など本事業に関するご連絡にのみ使用させていただきます。また、第三者に開示・提供することはありません。

参加者氏名	
住所	
電話番号	



←こちらから参加申込用のGoogleフォームが利用できます。

令和4年度 面河山岳博物館 夜の講座

いい川ってどんな川？ ～生き物の視点から考える地域の川づくり～

久万高原町には山岳地の渓流から集落を流れる小川や水路、国道沿いの河川など、至るところに川が流れています。豊かな自然を観光や産業・文化資源として大切にしている久万高原では、気持ちのいい美しい川を大切にしたいという願いが町民共有のものと言っても過言ではないでしょう。

町内どこにあるコンクリート護岸や堤防などの人工物は、私たちの安全や農林漁業の保護に欠かすことができませんが、川にすむ魚や甲殻類、昆虫たちの生息に大きな影響を与えている事実もあります。一体、いい川とはどんな川なのでしょう？安全と生き物の保全は両立できるのでしょうか？

今回の講座では川の生き物を調べることで、生物多様性と人の暮らしに配慮した川づくりを目指した「応用生態工学」の専門家にお話しいただきます。後世に「いい川」を残すため何ができるか考えるきっかけにしてみましょう。

【主な講演内容】

- ◎川にすむさまざまな生き物とその恩恵（生態系サービス）
- ◎激化する洪水かく乱、川の生き物への影響は？
- ◎人の暮らしが変えた川の環境、川の生き物への影響は？
- ◎生き物の避難場所をつくる、多自然川づくり
- ◎久万高原の川の現状、いい川か？

☆日 時：令和4年11月2日(水) 19:00～20:15

☆場 所：久万高原町産業文化会館研修室
(久万高原町久万188番地)

☆参加費：100円 ☆定 員：40人



脇川支流の稲生川での調査の様子

【講師：三宅 洋さん】

愛媛大学大学院理工学研究科教授。北海道出身。北海道大学農学部卒業。京都大学大学院理工学研究科にて博士号を取得。岐阜大学流域圏科学研究所センターを経て、平成16年から愛媛大学に。水生昆虫等の多様性と出水の関係が研究テーマ。知力より体力を使うスタイルで研究を進めており、ほぼ全ての県内河川で調査を行っている。



★参加には申し込みが必要です★

- ※お問合わせ・お申込みは面河山岳博物館まで（電話：0892-58-2130 FAX：0892-58-2136）
- ※聴講の際はマスクを持参の上、着用ください。発熱など体調不良のある方は聴講をご遠慮ください。
- ※新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、延期もしくは中止の場合もあります。
- ※お車の駐車は産業文化会館および久万高原町役場の駐車場をご利用ください。

参加申込票

参加者氏名	
住所	
電話番号	



←こちらから参加
申込用のグーグル
フォームが利用でき
ます。

令和5年度 面河山岳博物館 夜の講座

身近でもこんなに知らない サワガニのこと

雨の日の水路や田んぼなど、身近な場所で見かけることができるサワガニ。山育ちの方や山遊びが好きな方なら一度は見たことがあるのでは？実はこのサワガニ、一生を淡水で過ごす、カニの中では比較的少数派のグループに属しています。そのため、海のカニに比べてあまり移動せず、地域ごとに特色ある進化を遂げてきました。

今回の講座では名前是谁もが知っているもその実態はほとんど知られていないサワガニの生態や一生、特徴のある体色の違い、そして左右でサイズの異なるハサミの謎について、お話いただきます。

【主な講演内容】

- ◎世界のカニ、カニってこんな生き物
- ◎サワガニのくらし
- ◎サワガニと人の関わり 林業の視点から
- ◎赤・紫・白・青など様々な体色の秘密
- ◎利き腕はどっち？ハサミの左右性の謎

☆日 時：令和5年4月12日(水) 19:00～20:15

☆場 所：久万高原町産業文化会館研修室
(久万高原町久万188番地)

☆参加費：100円 ☆定 員：50人

☆講 師：中村仁駿さん
(愛媛県農林水産研究所林業研究センター主任研究員)



繁殖期は6～10月頃。メスは腹節に卵を抱え、稚カニが生まれるまで主に陸上で活動します。



オスは片方のハサミが大きい。大きい方が利き腕で、右利きと左利きの個体があります。なぜその違いがうまれるのでしょうか？

★参加には申し込みが必要です★

- ※お問合わせ・お申込みは面河山岳博物館まで（電話：0892-58-2130 FAX：0892-58-2136）
- ※新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、延期もしくは中止の場合もあります。
- 変更があった際は、ホームページやフェイスブックなどで告知いたします。
- ※お車の駐車は産業文化会館および久万高原町役場の駐車場をご利用ください。

参加申込票

参加者氏名	
住所	
電話番号	



←こちらから参加
申込用のグーグル
フォームが利用でき
ます。

令和4年度 面河山岳博物館 夜の講座

待ったなし！石鎚と久万高原のニホンジカ問題 ～農林業被害から観光資源の劣化まで～

今、愛媛では増えすぎたニホンジカにより、農林業被害や自然植生の衰退が大きな問題になっています。久万高原では特に林業の現場で目立ち始めた獣害だけでなく、石鎚山系を中心に希少な草花への被害や樹皮剥ぎが目に見えて増え、森林環境の大きな変化に直面しつつあります。町の重要な観光資源である「自然」の劣化が進んでしまつては、観光振興どころではありません。

農林業関係者や地域住民、そして自治体職員の皆さんに知っておいてもらいたいこと、それは「被害が大きくなってからは手遅れ、密度が低いうちに対策を実行する」です。今回の講座では、石鎚山系やその周辺におけるニホンジカ問題の現状についてお話しします。待ったなし！です。



オスのニホンジカ
久万高原町東明神, 2021.11.24



ヒノキ樹皮剥ぎ
久万高原町日野浦, 2022.3.29



自然林内のリョウブ樹皮剥ぎ
坂瀬渓谷, 2022.3.29

【主な講演内容】

- ◎石鎚山系で増えているニホンジカ
- ◎久万高原での無人カメラ調査、植生被害調査
- ◎農林業、集落への影響、過疎化・高齢化
- ◎観光資源の劣化による観光産業への影響
- ◎実効性のあるニホンジカ問題への対応とは？

☆日 時：令和4年12月8日(木) 19:00～20:15

☆場 所：久万高原町産業文化会館研修室
(久万高原町久万188番地)

☆参加費：100円 ☆定 員：40人

☆講 師：山本貴仁さん (NPO法人西条自然学校理事長)

★参加には申し込みが必要です★

- ※お問合わせ・お申込みは面河山岳博物館まで（電話：0892-58-2130 FAX：0892-58-2136）
- ※聴講の際はマスクを持参の上、着用ください。発熱など体調不良のある方は聴講をご遠慮ください。
- ※新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、延期もしくは中止の場合もあります。
- ※お車の駐車は産業文化会館および久万高原町役場の駐車場をご利用ください。

参加申込票

参加者氏名	
住所	
電話番号	



←こちらから参加
申込用のグーグル
フォームが利用でき
ます。

令和5年度 面河山岳博物館 夜の講座

里山の自然のトリセツ ～里山の動植物、その生物多様性の簡易的な評価法～

石鎚山や血ヶ嶺、大川嶺など自然度の高い奥山エリアの周りには、雑木林や田畑、植林地などの里山環境が広がっています。そこは農林業の営みや普段の暮らしの場でありながら、様々な動植物が生息する生物多様性の高いエリアでもあります。しかし、高齢化や過疎化などによって、里山への人の手の加わり方は大きく変わりつつあり、そこにすむ生物たちの微妙なバランスは崩れつつあります。今後、里山の生物多様性はどのように保全されるべきでしょうか？

面河山岳博物館では今年、町内の代表的な里山環境として「久万高原ふるさと旅行村」で植物調査を実施しました。愛南町や松山市での生物調査を含め、希少種や普通種、外来種などを通して、身近な里山の自然との付き合い方について考えてみましょう。

【主な内容】

- ◎里山の生物多様性をどう評価する？
- ◎愛南町と松山市鳳早地区の里山
- ◎里山の植物・野鳥・昆虫
- ◎久万高原ふるさと旅行村の植物
- ◎里山の生物多様性を脅かす外来生物
- ◎これからの時代、里山の生物多様性保全
- ◎標本を残そう！その意義と必要性



ギンラン

ササユリ

テンパンギセル

日時 令和5年11月30日(木) 19:00～20:15

場 所 久万高原町産業文化会館研修室
(久万高原町久万188)

参加費 100円 **定 員** 50人

【講 師：橋越清一（はしこえきよかず）さん】
日本生物教育学会四国支部長、愛媛植物研究会会員。元県立高校教員。南予を中心に動植物相を調査する傍ら、植物や野鳥の観察会講師として活躍。愛車の年間走行距離は4万km以上。令和5年、ふるさと旅行村植物調査に携わり、400種の高希少植物をリスト化した。



参加には申し込みが必要です。

- ※お問合わせ・お申込みは面河山岳博物館（電話：0892-58-2130 FAX：0892-58-2136）
- ※お車の駐車は久万高原町役場および産業文化会館の駐車場をご利用ください。

フォームから申込可



参加申込票

参加者氏名	
住所	
電話番号	

発光生物のはなし

～ホタルだけじゃない！クラゲもミミズもキノコも光る～

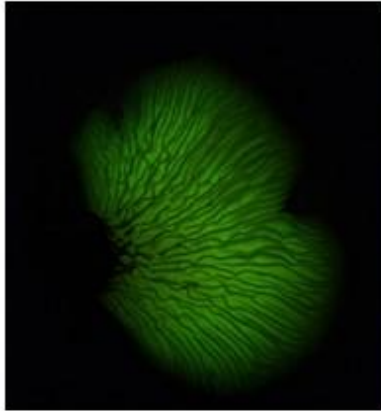
発光生物というとホタルが有名ですが、それ以外にも私たちのまわりには美しく光る不思議な生き物が見られます。ミミズやヤスデ、トビムシなどの陸上動物から海の生き物まで、さらには光るキノコも存在します。

今回の講座では愛媛大学理学部で発光生物を研究中の演者が、自身の研究内容だけでなく、その不思議で魅惑的な光の世界を分かりやすく解説します。そんな生き物が！という驚きの発光生物や愛媛でも見ることができる種類、発光の仕組みや役割、ノーベル賞にもなった発光生物研究の応用など、話題盛りだくさんです。

クリスマス直前、イルミネーションのような光る生き物たちの世界をのぞいてみましょう！



ツルクール (松山市隠神寺)



ツキヨウケ (岡河原)



ミミズ (愛媛大学)

日時 令和5年12月18日(月) 19:00～20:15

場 所 久万高原町産業文化会館研修室
(久万高原町久万188)

参加費 100円 **定 員** 50人

【講 師：南條完知 (なんじょう かんち) さん】

愛媛大学理学部首席。愛知県名古屋出身。生物の光に魅せられ日本各地で発光生物を探し回る。これまでに見た発光生物は75種を超え、世界で初めて3種のクラゲが発光することを発見。現在は、発光生物とその進化について研究中。



参加には申し込みが必要です。

※お問合わせ・お申込みは面河山岳博物館 (電話：0892-58-2130 FAX：0892-58-2136)
※お車の駐車は久万高原町役場および産業文化会館の駐車場をご利用ください。

フォームから申込可



参加申込票

以下に必要事項をご記入の上、博物館までFAXください。いただいた個人情報は適正に管理し、延期・中止など本事業に関するご連絡にのみ使用させていただきます。また、第三者に開示・提供することはありません。

参加者氏名	
住所	
電話番号	

瀬戸内の白砂が語る

愛媛の大地

白い砂浜に青々とした松林が続く様子は、日本の美しい海岸の風景として「白砂青松」と形容され、瀬戸内海の代表的な景観のひとつです。

この砂浜の白い砂は、瀬戸内海周辺に広く分布する花崗岩に由来します。中生代白堊紀にアジア大陸の東側で形成された花崗岩を含む大地が大陸から分裂し、約1500万年前に現在の場所まで移動してきたと考えられています。この移動こそが日本列島誕生のきっかけであり、花崗岩由来の砂浜の砂からは大地の成り立ちを知ることができます。

今回の講座では愛媛の白砂や花崗岩を観察しながら、私たちの足元の歴史を探ります。また、約1500万年前におこった現在の石鎚山周辺での火山活動にも触れ、久万高原町の大地の成り立ちにも迫ります。



中津市志摩・尾道岸



石鎚山

日時 令和6年4月18日(木) 19:00～20:15

場 所 久万高原町産業文化会館研修室 (久万高原町久万188)

講 師 山根勝枝さん (愛媛県総合科学博物館学芸員)

参加費 100円 **定 員** 50人

フォームから申込可



参加には申し込みが必要です。

※お問合わせ・お申込みは面河山岳博物館 (電話：0892-58-2130 FAX：0892-58-2136)
※お車の駐車は久万高原町役場および産業文化会館の駐車場をご利用ください。

参加申込票

以下に必要事項をご記入の上、博物館までFAXください。いただいた個人情報は適正に管理し、延期・中止など本事業に関するご連絡にのみ使用させていただきます。また、第三者に開示・提供することはありません。

参加者氏名	
住所	
電話番号	